

Improvement Of Teaching Methods(13)

次期学習指導要領第2部 その2

校長

前回の第1部では、次期学習指導の基本的な方向性に関することを記しましたが、今回は第2部では、高校学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性に関することを記します。ここでは高等学校の基本的な枠組みと学校段階間の接続、各教科・科目の内容の見直しについて読んでおく必要があります。

高等学校の基本的な枠組みとして、「共通性の確保」と「多様性への対応」の観点を軸にしなから、高大接続改革の動きを踏まえて教科・科目を見直すことが謳われています。卒業に必要な単位数を74単位以上とするとともに、必修教科・科目を設定して、生徒が社会に生きていくための力を共通に身につけさせることが謳われています。そういう点では、本校が単位制普通科に改編するにあたって校内で必修科目を設定し、卒業単位数を82単位に引き上げたことは時代の要請にあった改変といえましょう。

さらに、生徒の資質・能力の育成に向けて指導と評価の改善を一体として進めるため、観点別評価の一層の充実、指導要録の様式の見直し、探究の過程を重視した学習に関する評価の在り方、「キャリア・パスポート」などを活用し、生徒が学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりすることができるようにすることが謳われています。

学校間の接続に関しては、中学校は義務段階で身につけておくべき資質・能力を育成し、高校では必要に応じて学び直しの視点を踏まえた教育課程を編成するとともに、生徒の適切な教科・科目を選択できるよう指導の充実が謳われています。

高大接続に関しては、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の在り方を一体的に改革するものと記され、高校では高大接続の見通しを持ちながら教育課程の編成・実施・改善、指導や評価の充実を図ることが謳われています。

各教科・科目等の内容の見直しに関しては、新しい科目や、共通必修科目について記しておきます。国語では、必修科目として、実社会に生きて働く国語の能力を育成する科目「現代の国語」と、わが国の言語文化への理解を深める科目「言語文化」を設置します。地理歴史科では、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えた「歴史総合」、持続可能な社会づくりを目指し、現代の地理的な諸課題を考察する「地理総合」を必修科目として設置します。公民科では、自立した主体として国家・社会の形成に参画する力を育成する「公共」を新設し、必修科目としています。理科では、「理数課題研究」が廃止され、理数科に「理数探究基礎」・「理数探究」が新設されます。外国語では、4技能を総合的に扱う科目群として「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を設置し、Ⅰを必修とするとともに、発信能力を高める科目群として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設置します。情報では、必修科目として「情報Ⅰ」を設置します。探究する能力を育む総仕上げとして「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」として位置づけています。(裏面に教科・科目構成を記しました)

高等学校の教科・科目構成について

(科目構成等に変更があるものを抜粋)

■…共通必修 ■…選択必修

ReseMom

※ クレジット情報に基づく科目

国語科

論理国語	文学国語	国語表現	古典探究
現代の国語	言語文化		

外国語科

英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の統合型)	英語コミュニケーションⅠ (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の統合型)
講座・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (スピーチやプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション等)	

※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

地理歴史科

地理探究	日本史探究	世界史探究
地理総合	歴史総合	

公民科

倫理	政治・経済
公共	

家庭科

家庭基礎	家庭総合
------	------

情報科

情報Ⅱ
情報Ⅰ

理数科

理数探究
理数探究基礎

総合的な探究の時間

総合的な探究の時間

※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

数学科

数学Ⅲ	数学C
数学Ⅱ	数学B
数学Ⅰ	数学A

理科

物理	化学	生物	地学
物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
科学と人間生活			